

■庁内会議委員（平成 22～23 年度）

氏 名	備 考
照井 康晴	建設部長
遠藤 久志	建設部次長兼道路河川課長（平成 22 年度）
渡部 幸伸	建設部道路河川課長（平成 23 年度）
日野 充	建設部建築住宅課長
佐藤 良吉	総務企画部長兼経営企画課長（平成 22 年度）
高橋 嘉	総務企画部経営企画課長（平成 23 年度）
小松田 文夫	産業経済部観光物産課長
佐藤 誠悦	産業経済部農林整備課長
高山 勇光	産業経済部農業政策課長（平成 22 年度）
関口 悦雄	産業経済部農業政策課長（平成 23 年度）
菊地 晴男	福祉環境部生活環境課長
高橋 功	教育委員会文化財保護課長（平成 22 年度）
黒政 欽一	教育委員会文化財保護課長（平成 23 年度）

■事務局（平成 22～24 年度）

氏 名	備 考
照井 康晴	建設部長（平成 22～24 年度）
佐越 和之	建設部都市計画課長（平成 22～23 年度）
日野 充	建設部都市計画課長（平成 24 年度）
神谷 昭浩	建設部都市計画課計画担当チーフ（平成 22～23 年度）
佐藤 肇	建設部都市計画課計画担当チーフ（平成 24 年度）
伊勢谷 篤	建設部都市計画課計画担当（平成 22～23 年度）
吉方 貞美	建設部都市計画課計画担当（平成 24 年度）
坂水 剛	建設部都市計画課計画担当（平成 24 年度）
渡部 将貴	建設部都市計画課計画担当（平成 22 年度）
高橋 慎一郎	建設部都市計画課計画担当（平成 22～24 年度）
照井 一義	建設部都市計画課計画担当（平成 23～24 年度）
高本 明美	建設部都市計画課計画担当（平成 23～24 年度）
石橋 大輔	産業経済部観光物産課（平成 22 年度）、同伝建推進室（平成 23 年度） 総務企画部市長公室伝建推進担当（平成 24 年度）

2. 策定の経緯

平成22年 9月27日	第1回横手市景観計画策定委員会
10月20日 ～ 11月5日	横手市景観まちづくりアンケート調査
11月24日	第1回庁内会議
11月30日	第2回横手市景観計画策定委員会
平成23年 2月23日	第3回横手市景観計画策定委員会
2月24日	第2回庁内会議
7月7日	第3回庁内会議
7月11日	第4回横手市景観計画策定委員会
9月1日	色彩基準検討会
11月25日	第4回庁内会議
12月16日	第5回横手市景観計画策定委員会
平成24年 1月23日 ～ 2月2日	地域づくり協議会への説明（8地域）
3月14日	第6回横手市景観計画策定委員会
5月21日 5月30日	地域懇談会（8地域）
6月11日 7月2日	景観計画案に関する意見募集（パブリックコメント）実施
7月12日	都市計画審議会（景観計画素案に関する意見聴取）
平成24年 9月25日	景観計画の策定（告示）

3. 横手市景観まちづくりアンケート調査の概要

(1) 調査概要

調査期間	平成 22 年 10 月 20 日から 11 月 5 日まで
調査の対象者と抽出方法	住民基本台帳に登録されている 20 歳以上の者から 3,000 名を無作為抽出
調査方法	<ul style="list-style-type: none">・ 郵便による配付及び回収・ 無記名形式
回収状況	1,006 人(回収率 : 33.5%)
調査内容	<ul style="list-style-type: none">・ 属性 (選択回答)・ 身の回りの景観について (選択回答)・ 横手市の景観について (選択回答)・ 良いと思う景観・良くないと思う景観について (自由記入回答)

(2) 調査結果

◆あなたご自身やあなたのお住まいについて

(n=1006)

①性別	男性	45.8%
	女性	53.7%
	無回答	0.5%
②年齢	20～29 歳	6.3%
	30～39 歳	11.3%
	40～49 歳	11.0%
	50～59 歳	21.2%
	60～69 歳	22.5%
	70 歳以上	27.1%
	無回答	0.6%
③職業	会社員、公務員	26.6%
	自営業	7.9%
	農林業	11.4%
	主婦(夫)	16.1%
	パート・アルバイト・内職等	8.7%
	学生	0.6%
	無職	24.0%
	その他	3.8%
	無回答	0.9%
④出身地	生まれてからずっと横手市に住んでいる	52.8%
	横手市で生まれたが、一度市外に転出し、再び横手市に戻ってきた	23.1%
	県内の他市町村の出身である	18.1%
	県外の出身である	5.5%
	その他	0.0%
	無回答	0.6%
⑤居住形態	一戸建て持ち家	92.7%
	分譲マンション	0.1%
	公営住宅	1.0%
	一戸建て借家	1.3%
	民間賃貸マンション・アパート	3.6%
	その他	0.5%
	無回答	0.8%

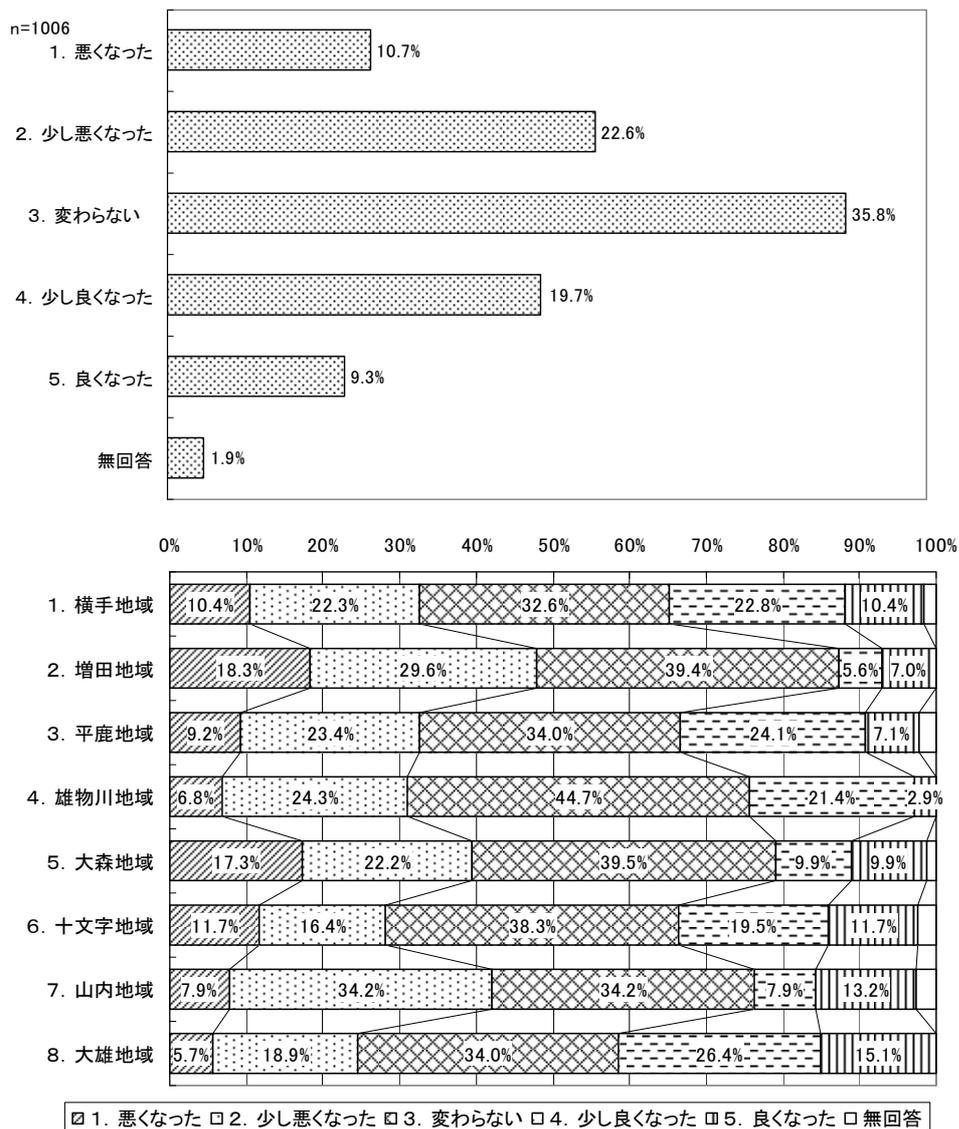
⑥家族構成	単身	5.3%
	親と子、夫婦と親など2世代世帯	41.9%
	夫婦のみ	20.0%
	3世代世帯(親と子と孫)以上の世帯	25.8%
	その他	6.2%
	無回答	0.8%
⑦居住地域	横手地域	38.4%
	増田地域	7.1%
	平鹿地域	14.0%
	雄物川地域	10.2%
	大森地域	8.1%
	十文字地域	12.7%
	山内地域	3.8%
	大雄地域	5.3%
	無回答	0.5%

◆あなたの身の回りの景観について

⑧身の回りの自然や街並みなどの景観

- 身の回りの自然や街並みなどの景観について、10年前と比べて「変わらない」と回答した人が36.1%と最も多くなっています。その他、「少し悪くなった」「少し良くなった」が2割前後、「悪くなった」「良くなった」が1割前後を占めています。
- 地域別にみても、増田地域、山内地域、大森地域の山間部の地域で「悪くなった」「少し悪くなった」が4割以上を占め、他の地域よりも高くなっています。一方、大雄地域、横手地域、平鹿地域、十文字地域では、「良くなった」「少し良くなった」の割合が高くなっており、山間部よりも都市部の地域の方が良い評価をしている傾向にあります。

問8 あなたの身の回りの自然や街並みなどの景観は、以前（10年前ぐらい）と比べて、どうなったと感じますか。（1つだけ選択）

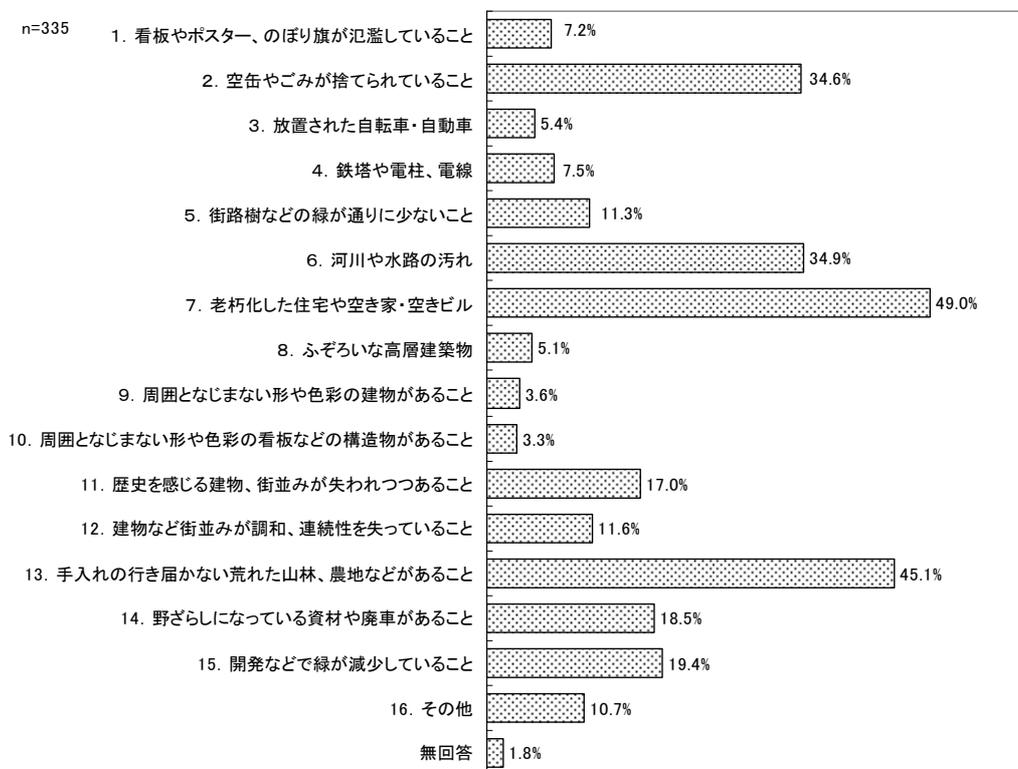


⑨身の回りの景観が「悪くなった」と感じること

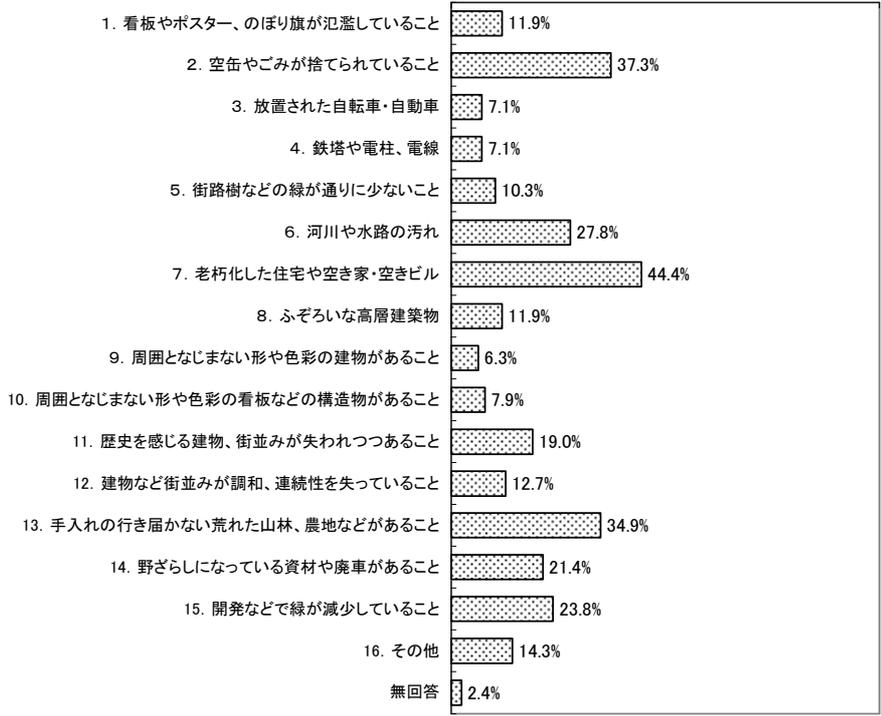
- 身の回りの景観が「悪くなった」と感じることは、「老朽化した住宅、空き家など」が半数近くを占め最も高い値を示し、次いで「荒れた山林、農地など」、「河川や水路の汚れ」「空き缶やゴミが捨てられている」が続いています。
- 地域別にみても、横手地域、増田地域、十文字地域では「老朽化した住宅など」、また、雄物川地域、大森地域、山内地域では「荒れた山林、農地など」が最も高い割合となっています。

問9 あなたの身の回りの景観が「悪くなった」と感じるのは、主にどのようなことについてですか。(すべて選択)

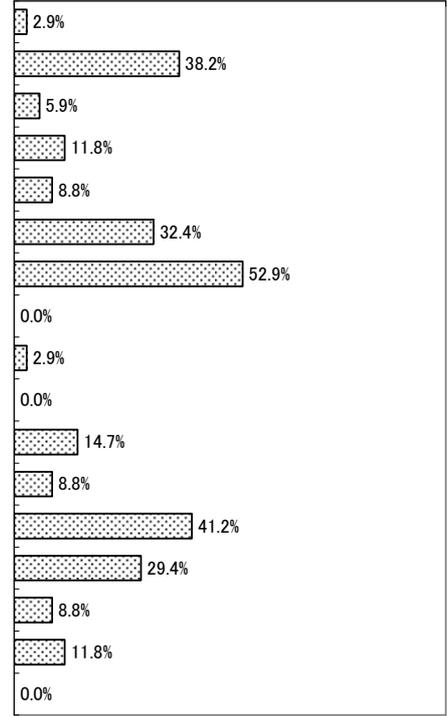
※問8で「1. 悪くなった」「2. 少し悪くなった」を選択した方のみ回答



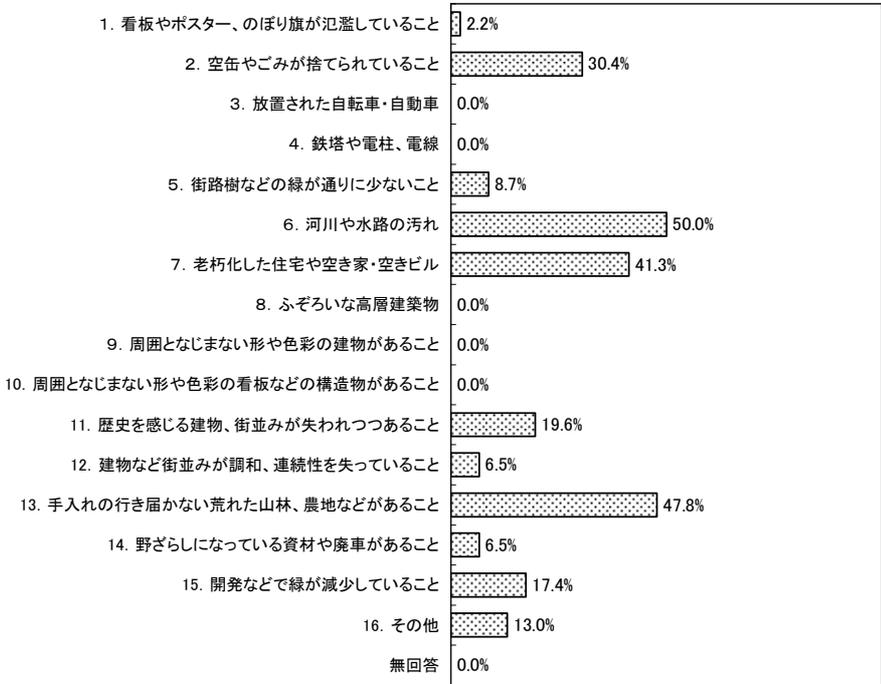
【横手地域】



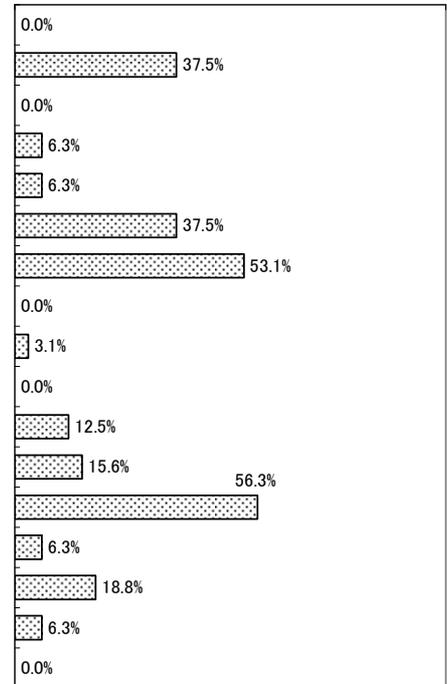
【増田地域】



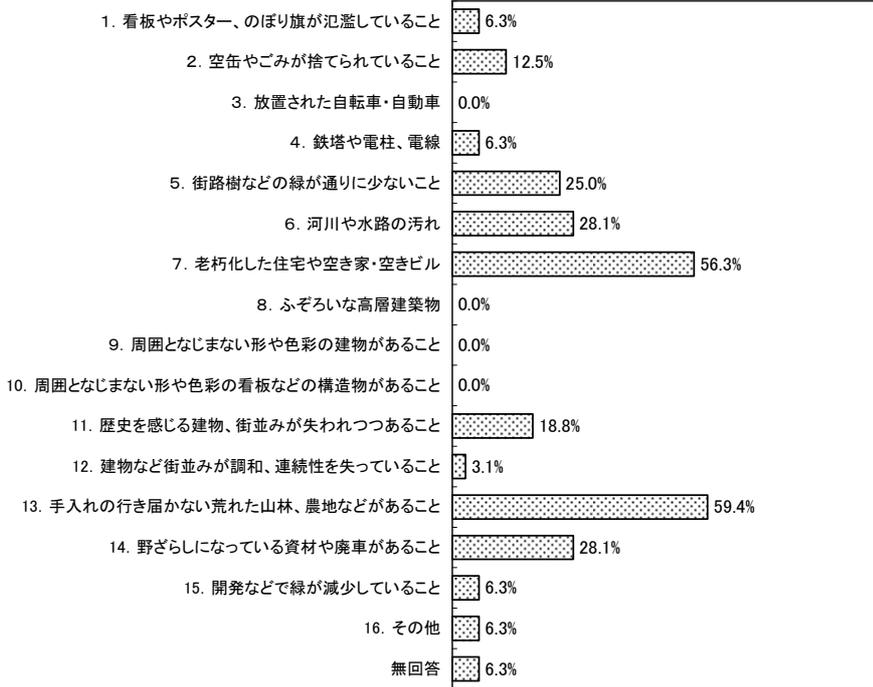
【平鹿地域】



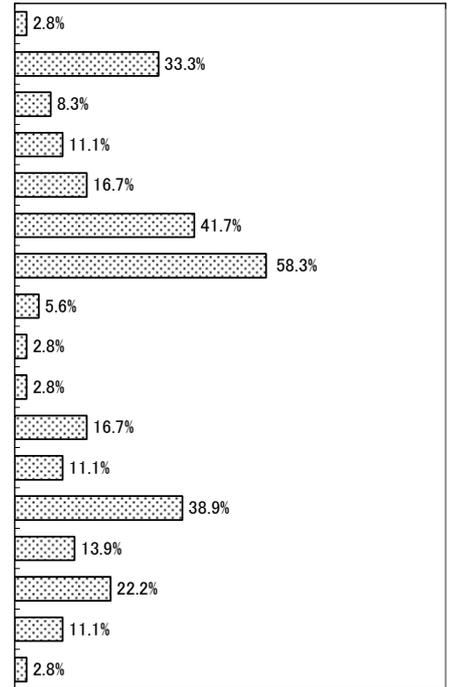
【雄物川地域】



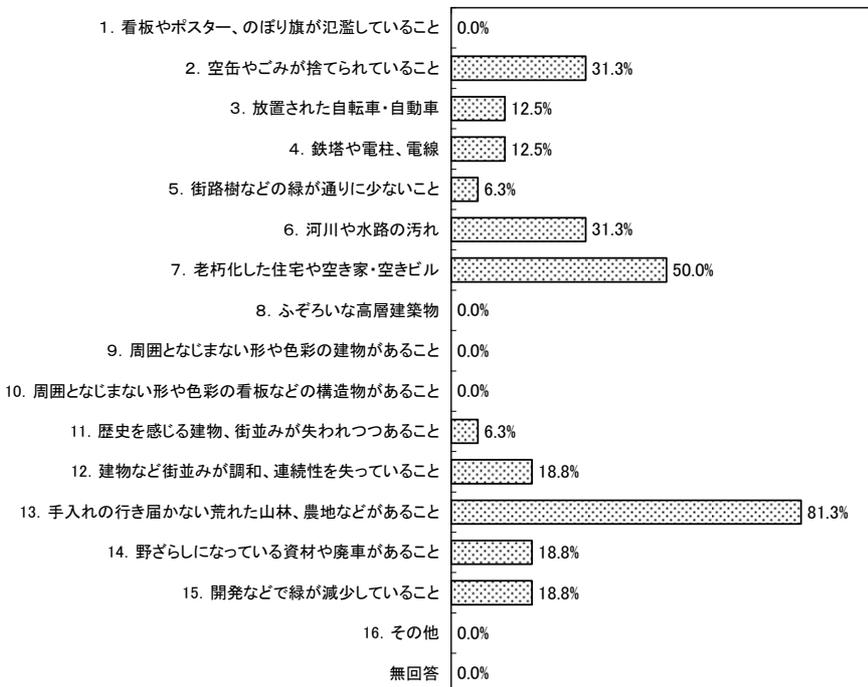
【大森地域】



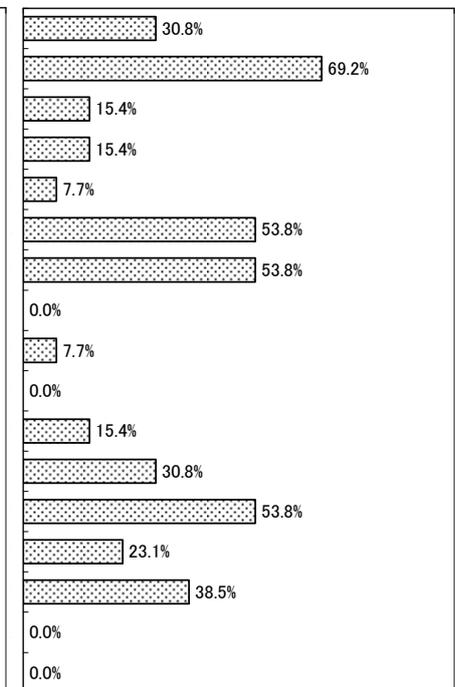
【十文字地域】



【山内地域】



【大雄地域】

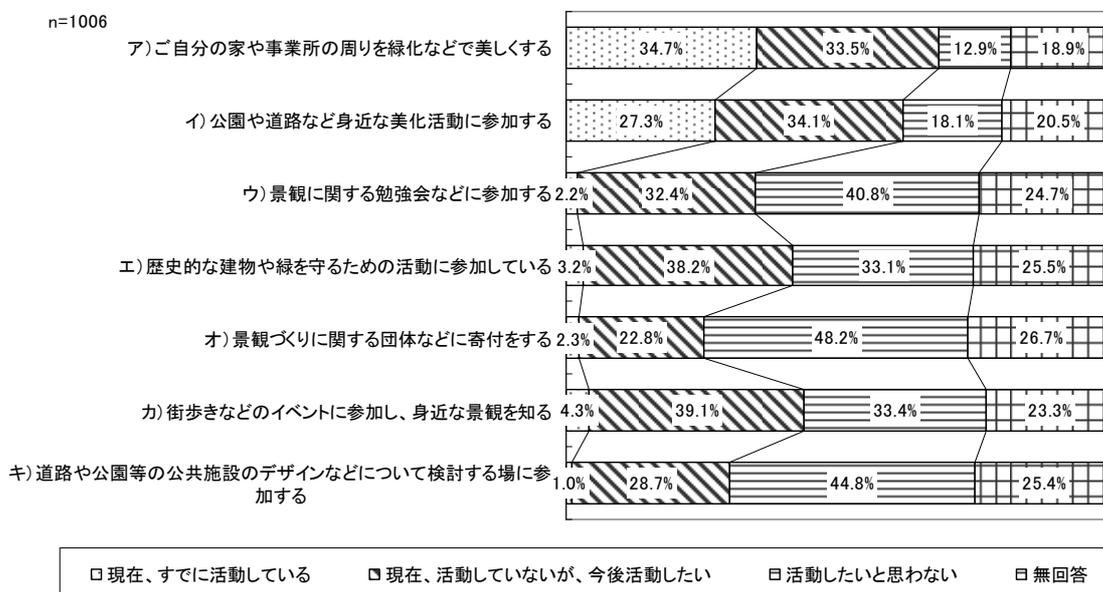


⑩現在の景観に関する活動参加状況、今後の参加意向

- 景観に関する活動参加状況については、「自分の家や事業所を緑化」「身近な美化活動」についてすでに活動している人が3割前後を占め、今後活動をしたい人を含めると6～7割の人が参加に前向きな意向を示しています。その他の項目については、現在活動している人が2～3%程度であるものの、「歴史的な建物や緑を守る活動に参加」「イベントに参加し身近な景観を知る」などは4割近い人が今後参加する意向を示しています。しかし、「寄付をする」「検討する場に参加」については半数近くの人が今後も活動したいと思わないとしています。
- 地域別にみても、いずれの地域も全体と同様な傾向がみられ「自分の家や事業所を緑化」「身近な美化活動」で参加の意向を示す割合が高い一方で、「寄付をする」については、活動したいと思わないが高くなっています。

問10 あなたは、現在、どのような景観に関する活動に参加していますか。また、今後どのような活動に参加したいと思いますか。(1つだけ選択)

n=1006

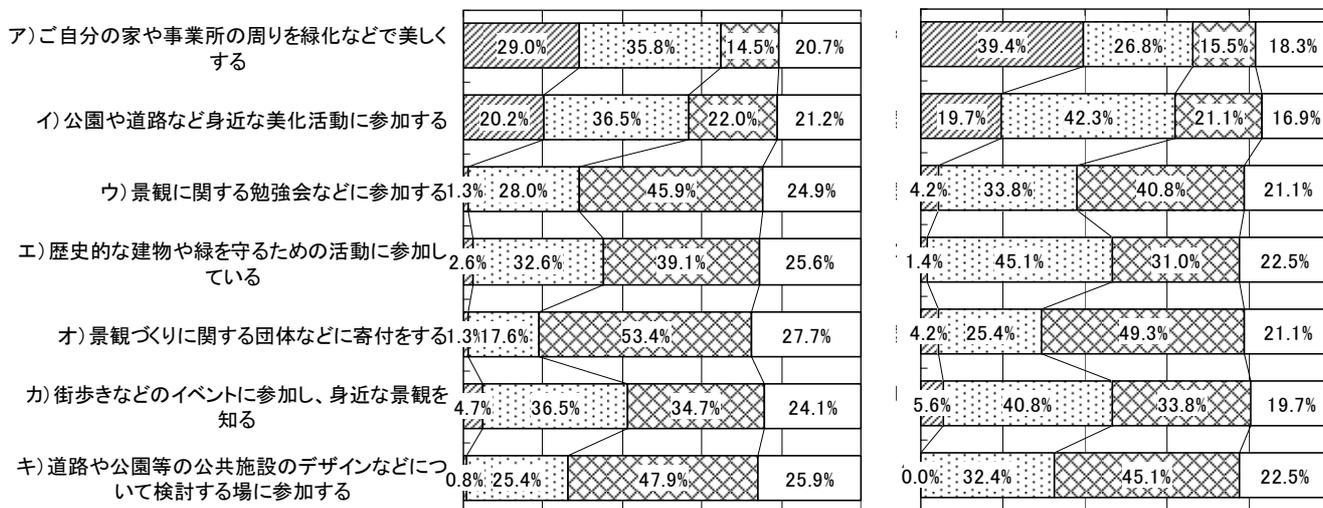


□ 現在、すでに活動している □ 現在、活動していないが、今後活動したい □ 活動したいと思わない □ 無回答

【横手地域】

【増田地域】

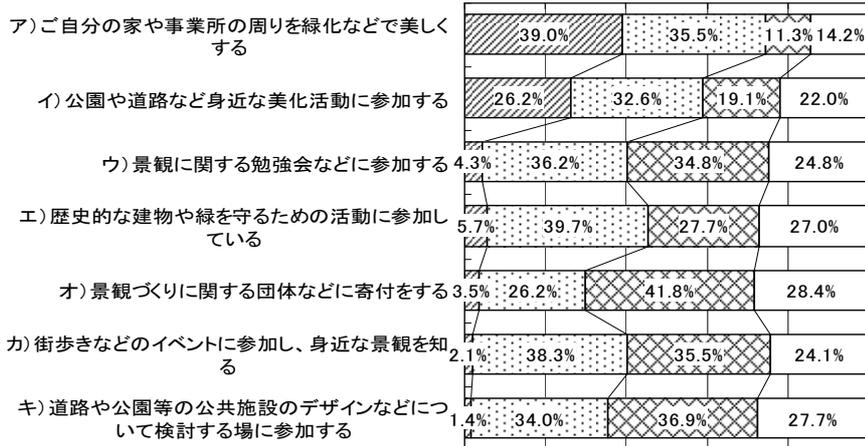
0% 20% 40% 60% 80% 100% 0% 20% 40% 60% 80% 100%



□ 1. 現在すでに活動している □ 2. 現在活動していないが、今後活動したい
□ 3. 活動したいと思わない □ 無回答

【平鹿地域】

0% 20% 40% 60% 80% 100%



□1. 現在すでに活動している

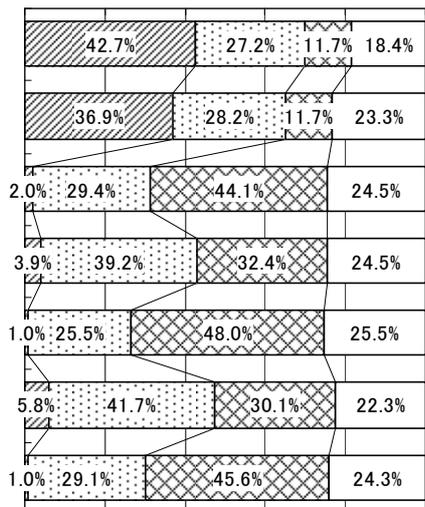
□3. 活動したいと思わない

□2. 現在活動していないが、今後活動したい

□ 無回答

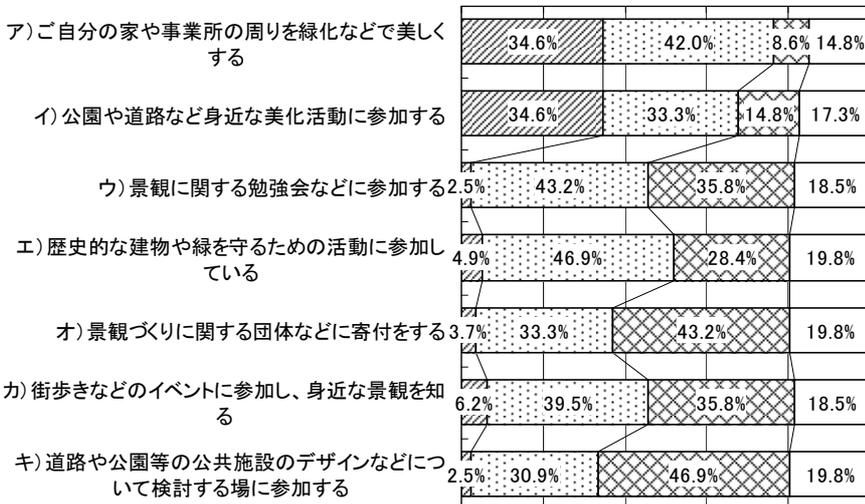
【雄物川地域】

0% 20% 40% 60% 80% 100%



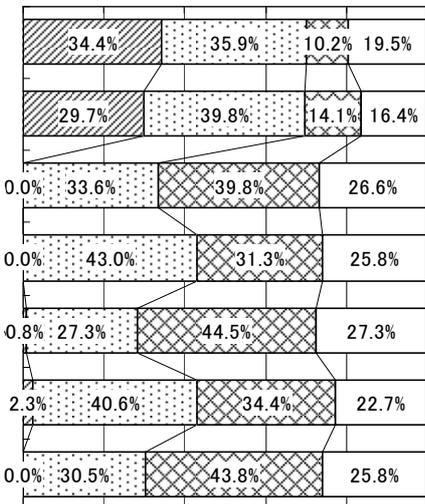
【大森地域】

0% 20% 40% 60% 80% 100%



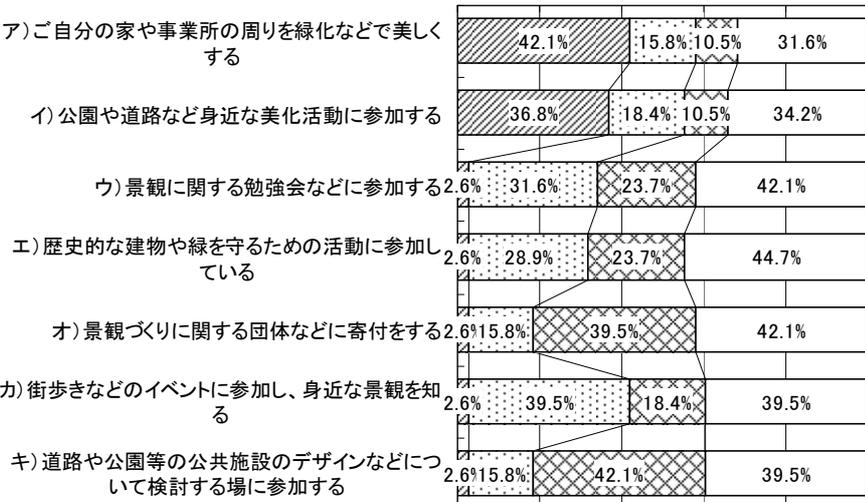
【十文字地域】

0% 20% 40% 60% 80% 100%



【山内地域】

0% 20% 40% 60% 80% 100%



□1. 現在すでに活動している

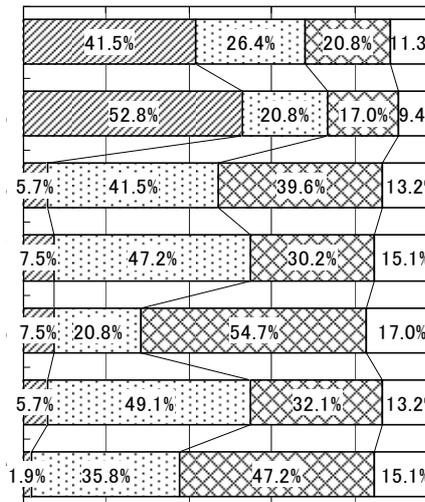
□3. 活動したいと思わない

□2. 現在活動していないが、今後活動したい

□ 無回答

【大雄地域】

0% 20% 40% 60% 80% 100%

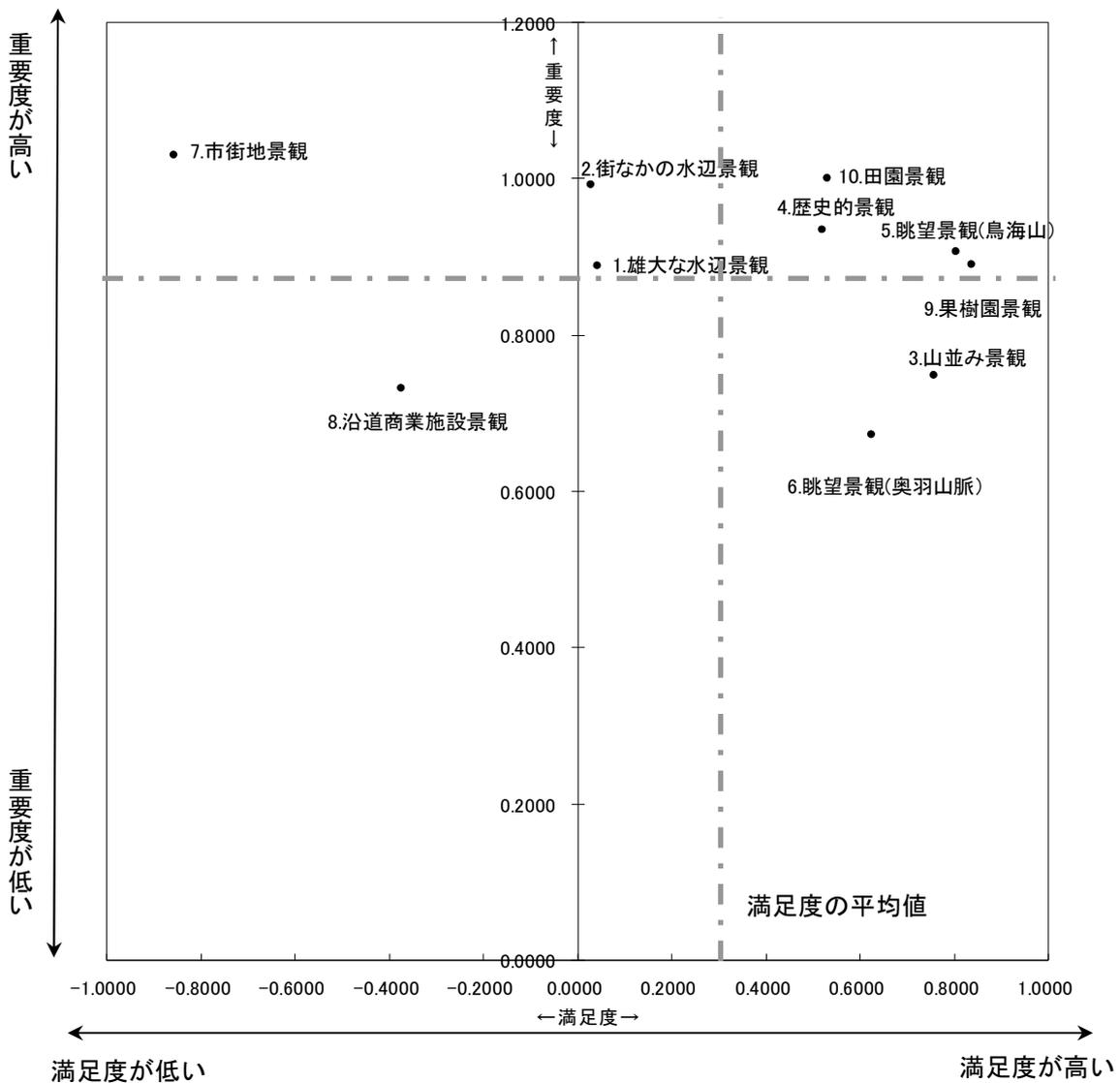


◆横手市の景観について

⑪主要な景観の「現在の評価」「今後の重要度」

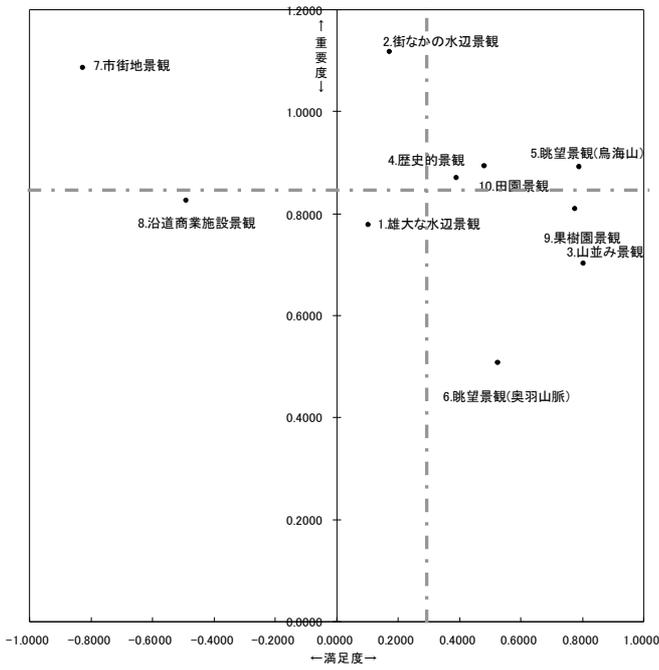
- 主要な景観について、現在の評価、今後の重要度がともに高いものは、「田園景観」「歴史的景観」「眺望景観（烏海山）」「果樹園景観」などがあります。
- 全体的にみて、自然的景観は現在の評価、今後の重要度が高い傾向にありますが、都市的な景観については、「市街地景観」は現在の評価は低いものの今後の重要度が高く、「沿道商業施設景観」は現在の評価、今後の重要度がともに低く平均値以下となっています。

問11 現在の評価と、今後の景観づくりにおける重要度がどの程度かお答えください。（1つだけ選択）

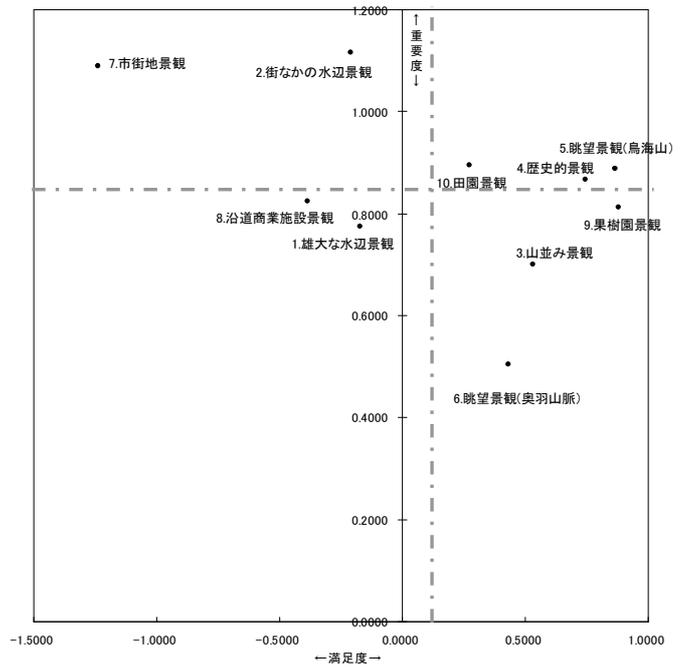


※ [満足 (重要) × 2 + やや満足 (重要) × 1 + やや不満 (あまり重要でない) × (-1) + 不満 (重要でない) × (-2) + 分からない × 0] / 選択者数 により数値化している

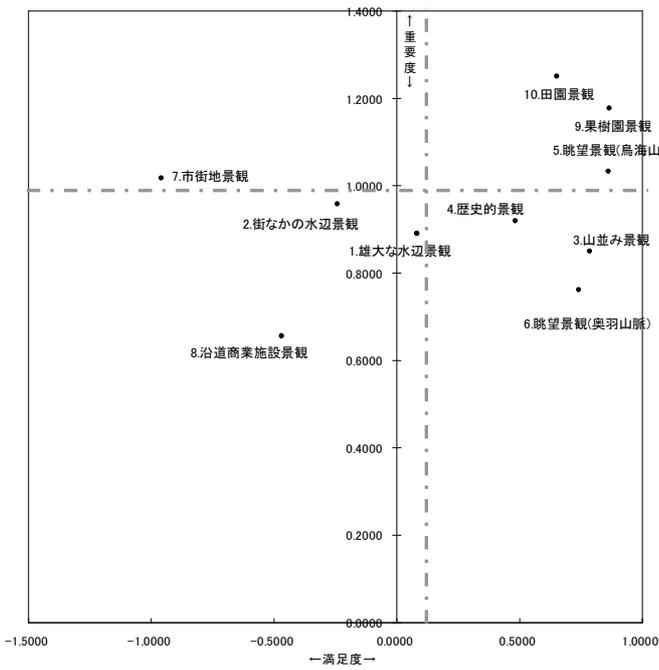
【横手地域】



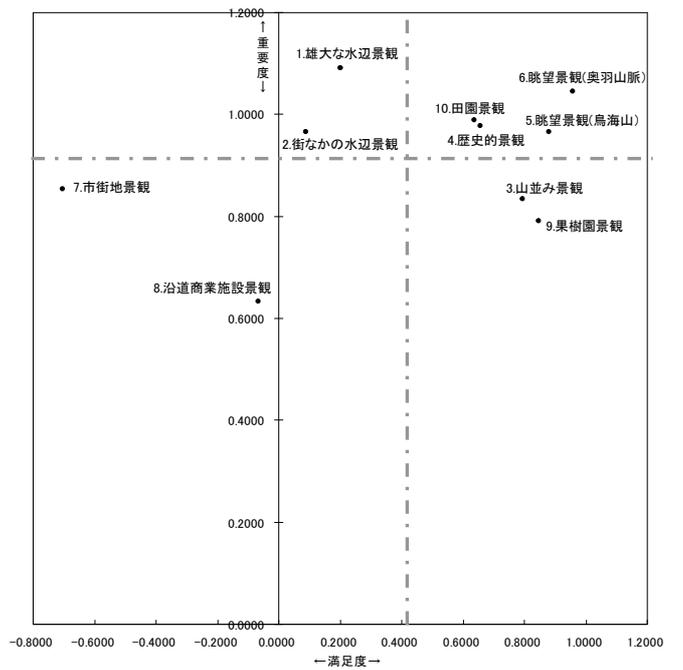
【増田地域】



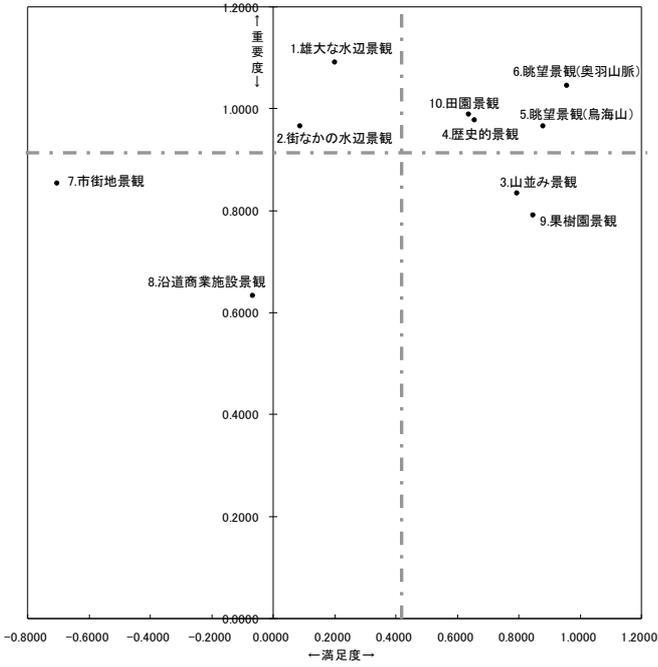
【平鹿地域】



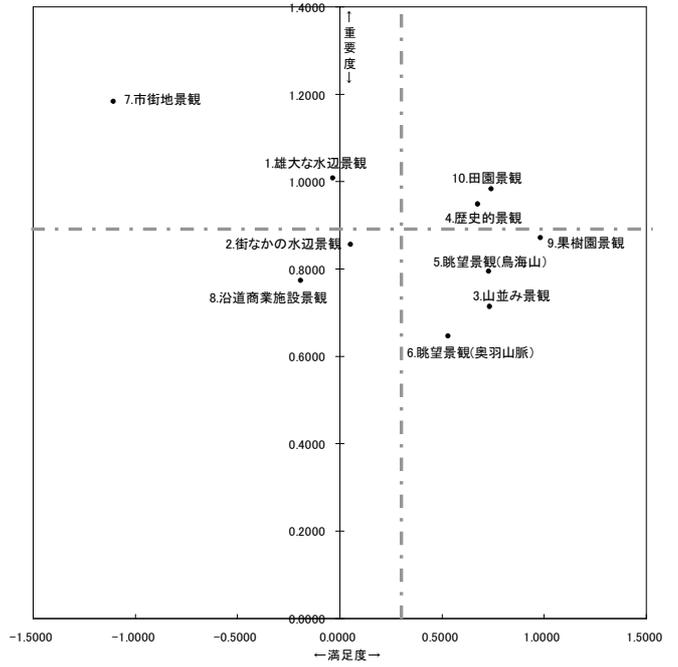
【雄物川地域】



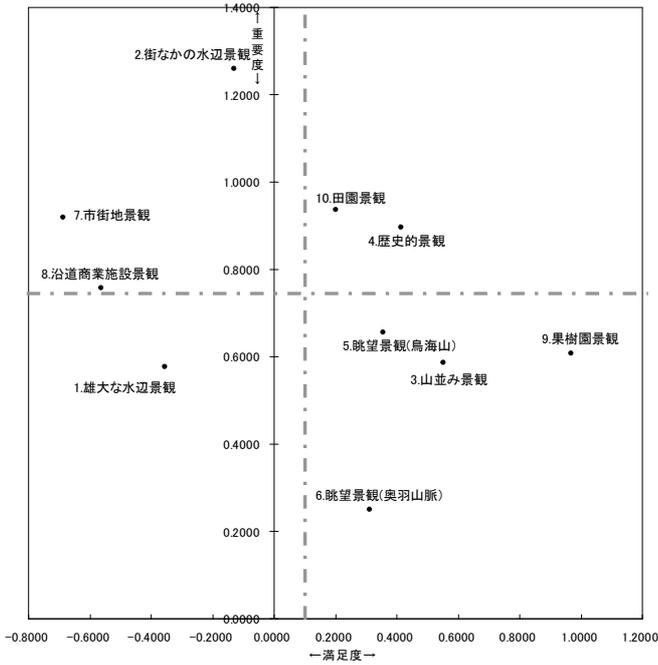
【大森地域】



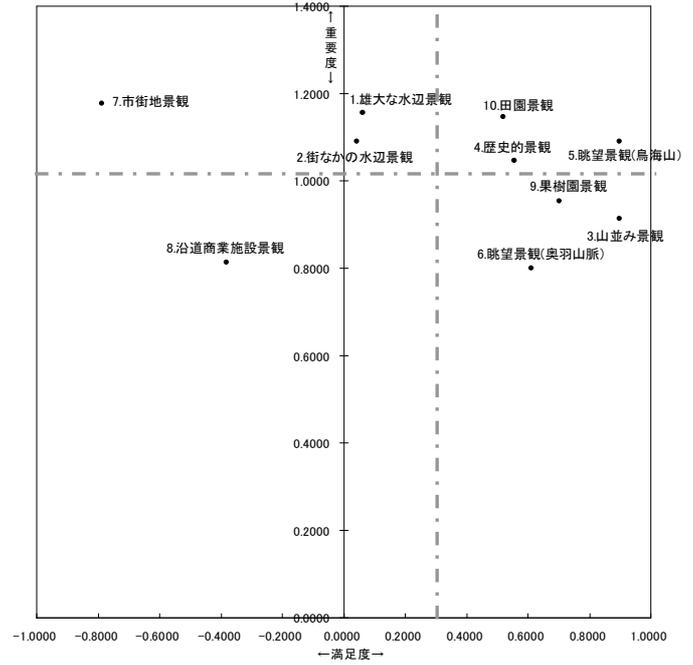
【十文字地域】



【山内地域】

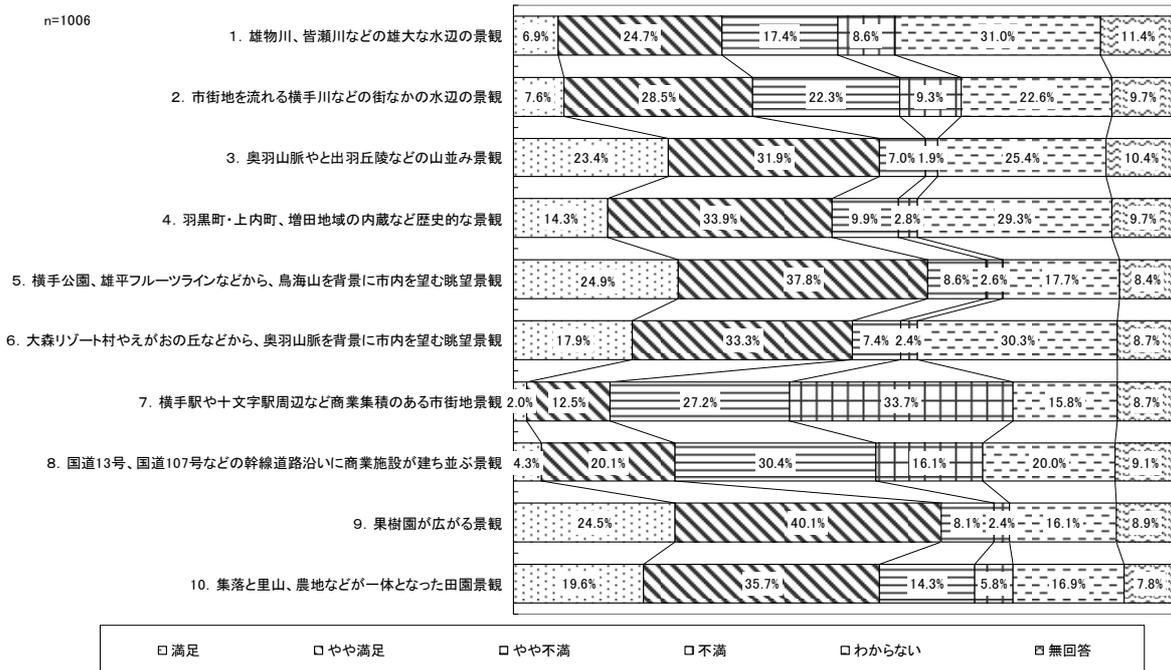


【大雄地域】



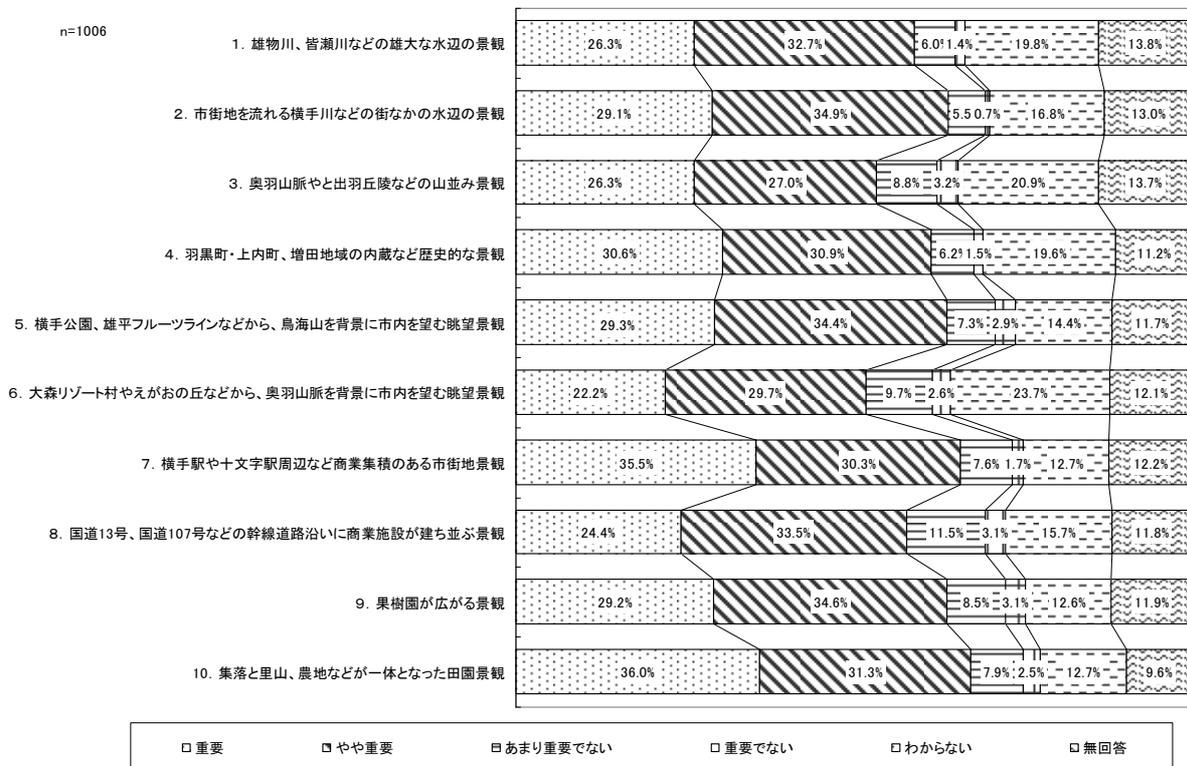
【満足度】

n=1006



【重要度】

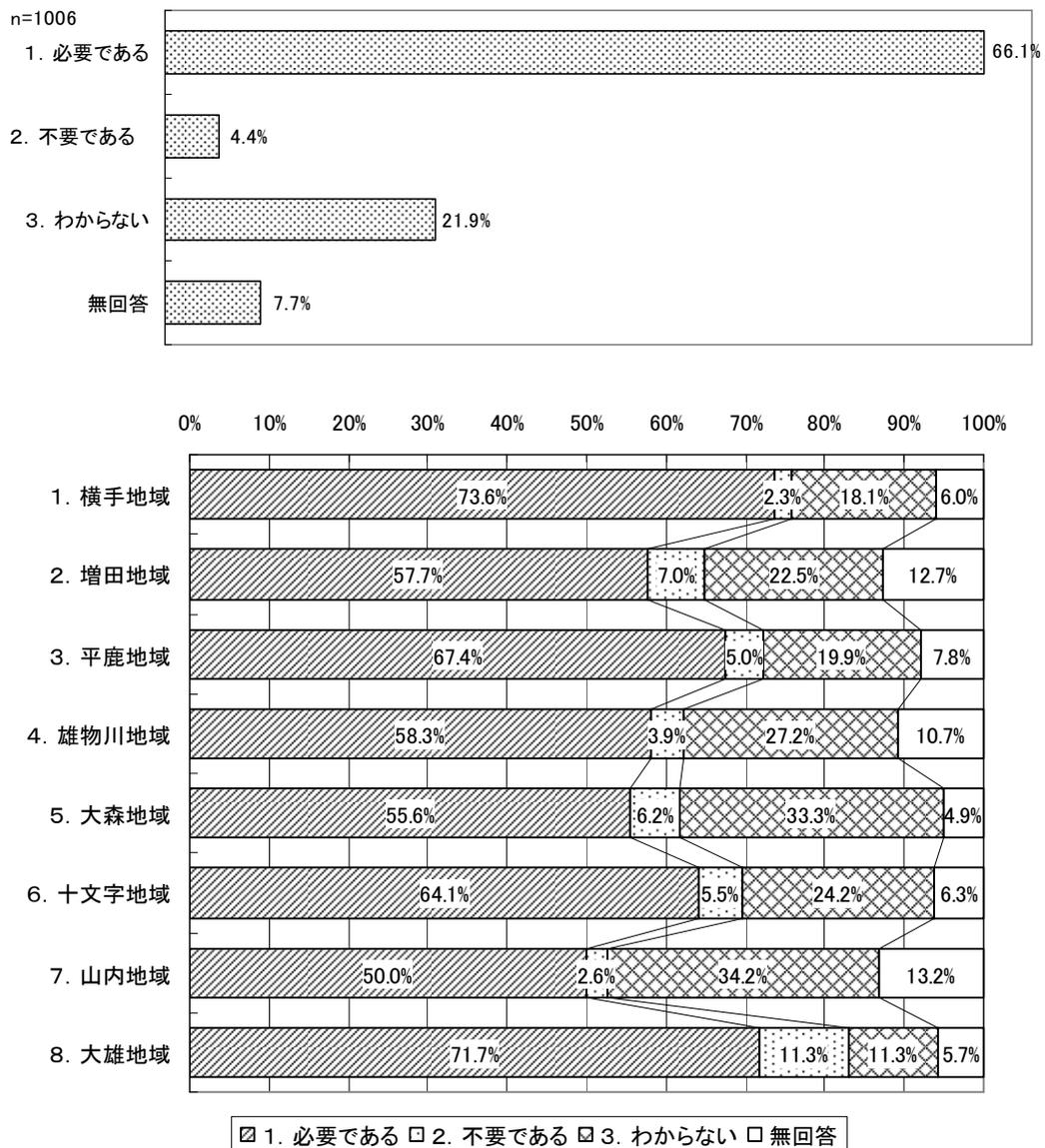
n=1006



⑫ 景観づくりルールの必要性

- 景観づくりのルールの必要性については、「必要である」が66.1%、「わからない」が21.9%、「不要である」が4.4%となっています。
- 地域別にみても、横手地域、大雄地域、平鹿地域で「必要である」と回答した人が7割前後を占め、他の地域よりも高くなっています。

問12 良好な景観を守り、育てていくための手法の1つとして、景観づくりのルールを設定し景観を誘導することがあります。あなたは、こうしたルールが必要だと思いますか。(1つだけ選択)

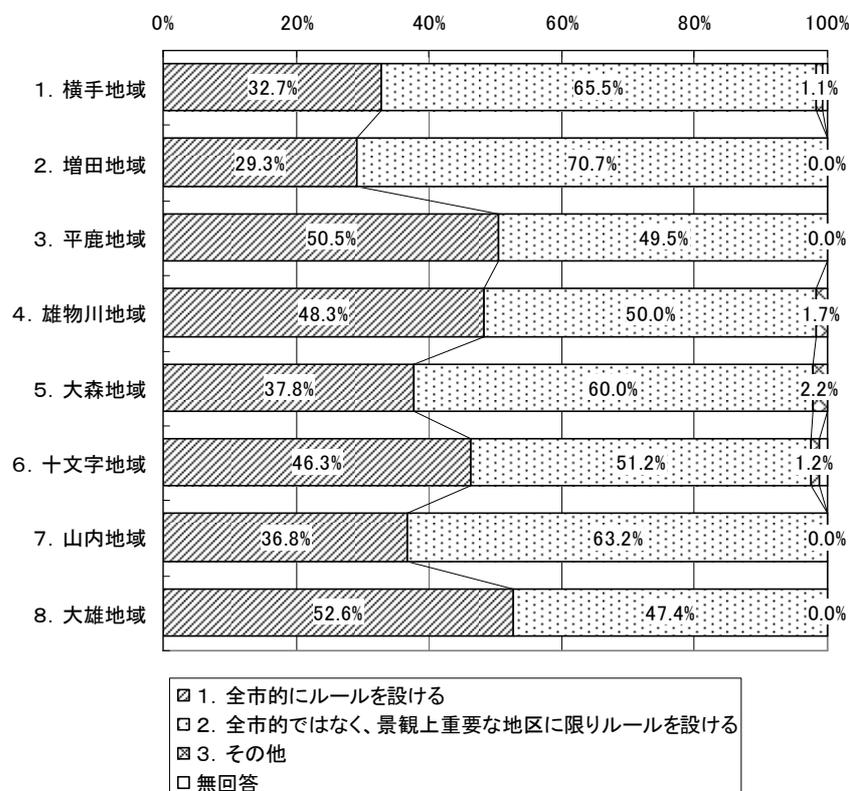
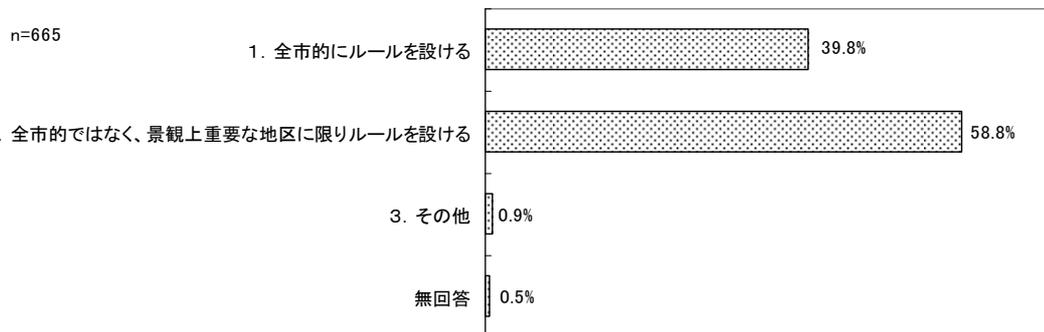


⑬ 景観づくりルールの設定のされ方

- 景観づくりルールについては、「全市的ではなく、景観上重要な地区に限りルールを設ける」が58.8%、「全市的にルールを設ける」が39.8%となっています。
- 地域別にみると、横手地域、増田地域で「全市的ではなく、景観上重要な地区に限りルールを設ける」と回答した人が7割程度を占め、他の地域よりも高くなっています。

問13 あなたは、景観づくりのルールは、どのように設定されるべきだと思いますか。(1つだけ選択)

※問12で「1. 必要である」を選択した方のみ回答

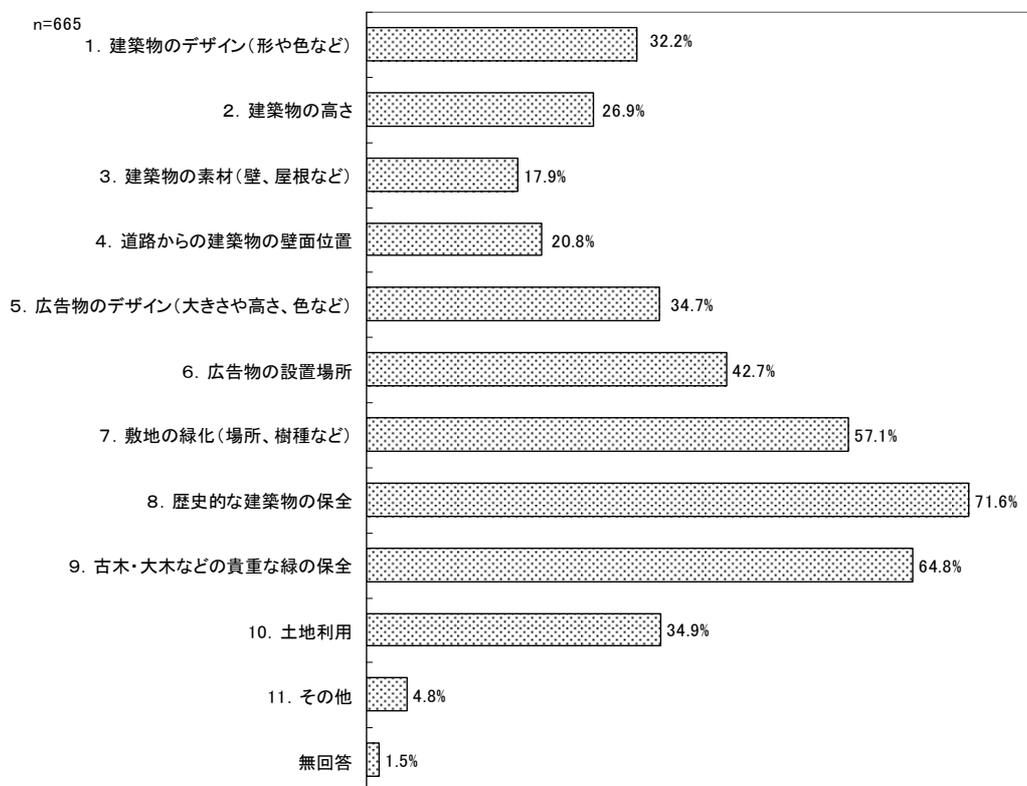


⑭ 景観づくりルールの設定に必要な取り組み

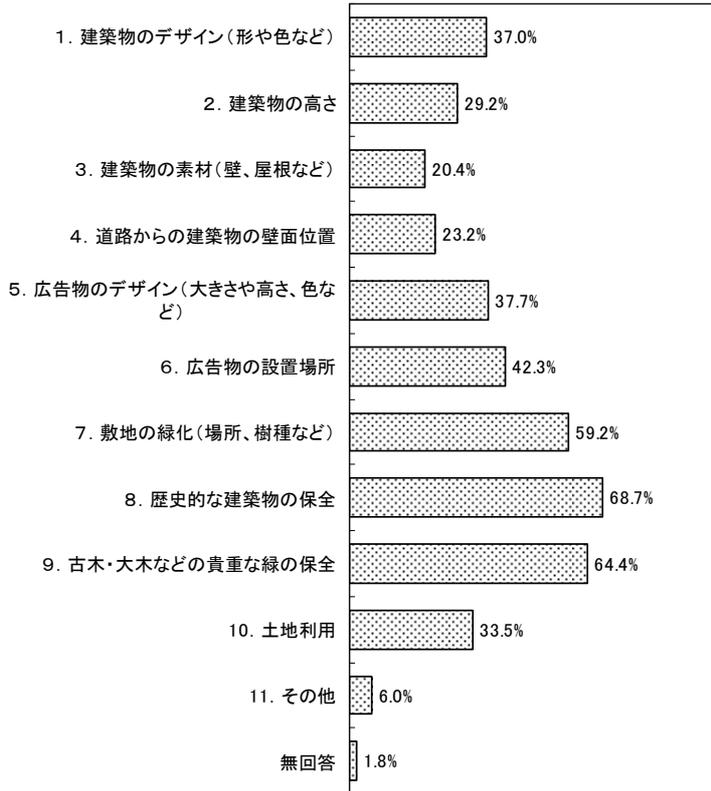
- 景観づくりルールの設定に必要な取り組みについては、「歴史的な建築物の保全」が71.6%となり最も高く、次いで、「貴重な緑の保全」が64.8%、「敷地の緑化」が57.1%と続いています。
- 地域別にみても、山内地域は「貴重な緑の保全」が最も高い割合となっていますが、他の地域は「歴史的な建築物の保全」の方が高くなっています。

問14 景観づくりのために、ルールを設けるとしたら、どのような取り組みが必要だと思いますか。(すべて選択)

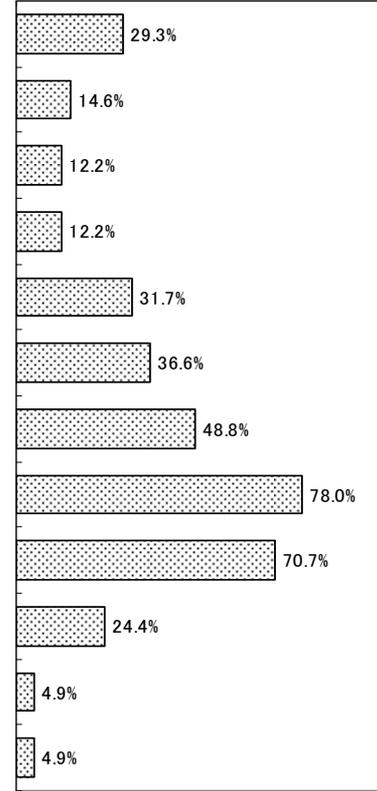
※問12で「1. 必要である」を選択した方のみ回答



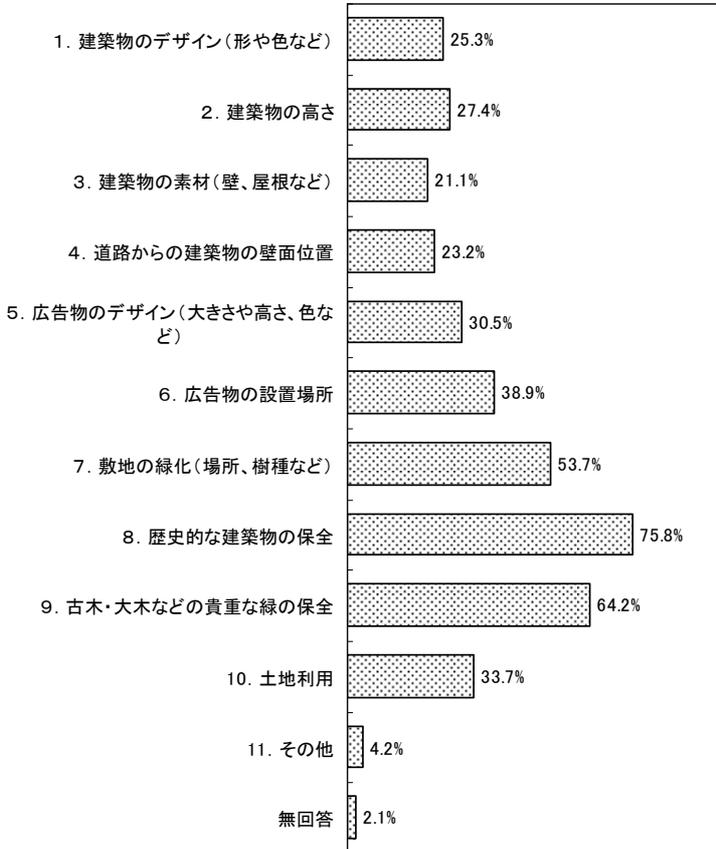
【横手地域】



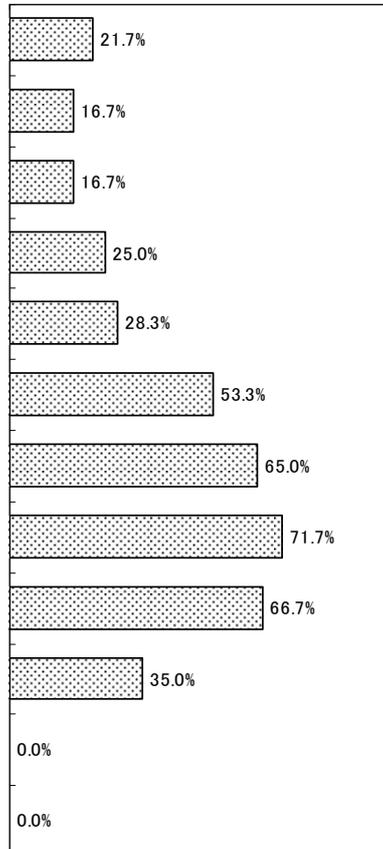
【増田地域】



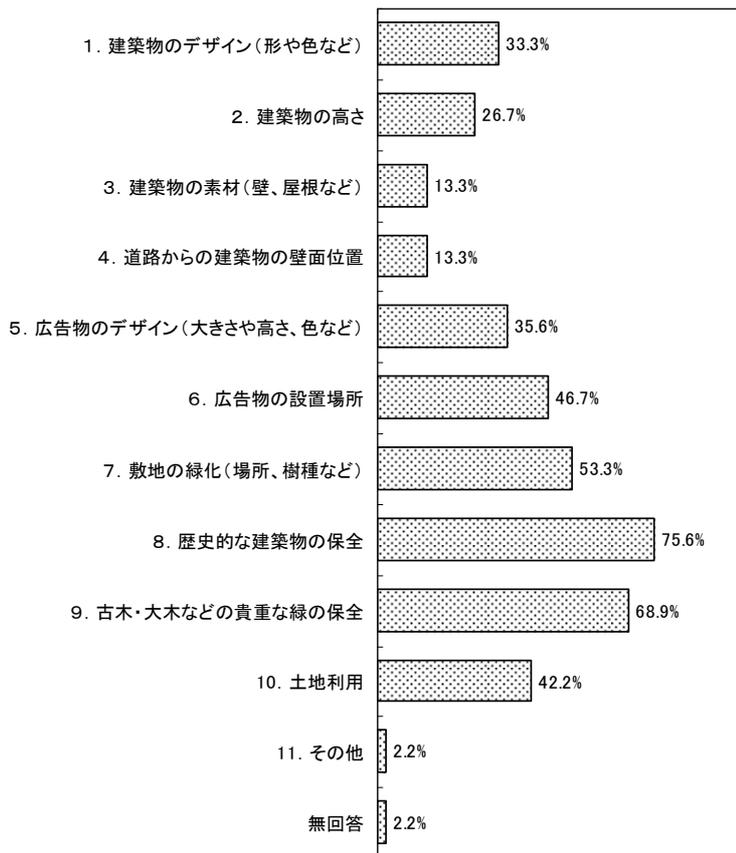
【平鹿地域】



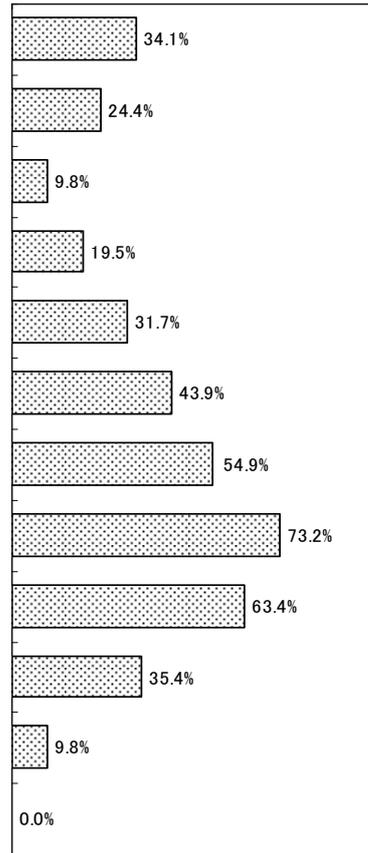
【雄物川地域】



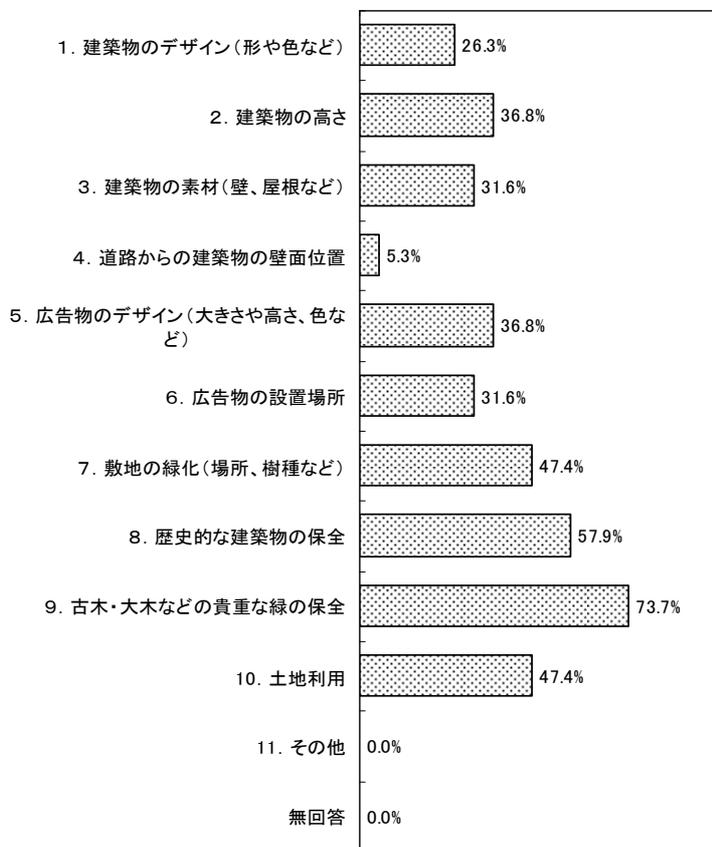
【大森地域】



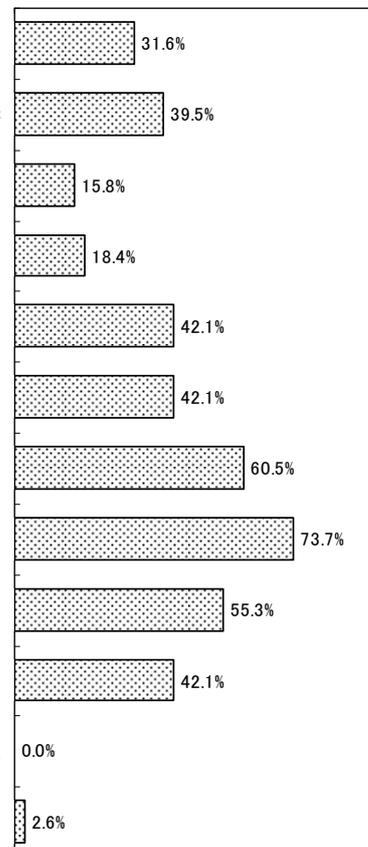
【十文字地域】



【山内地域】



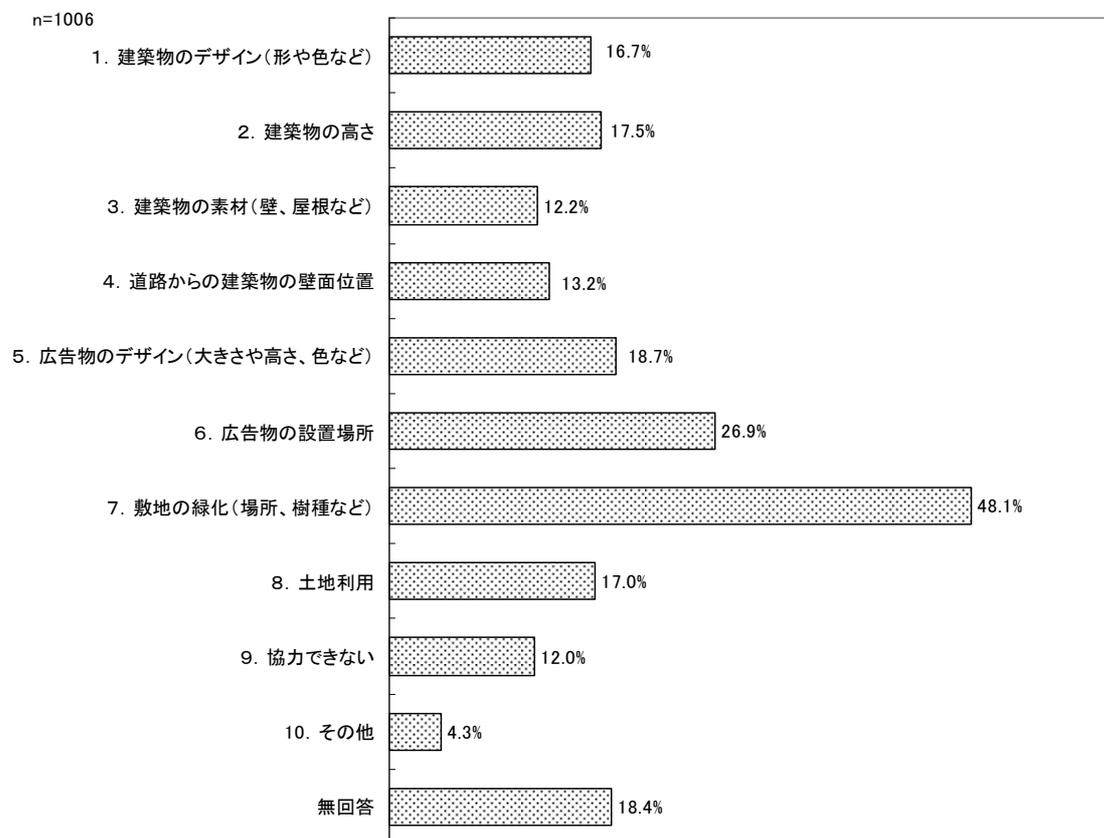
【大雄地域】



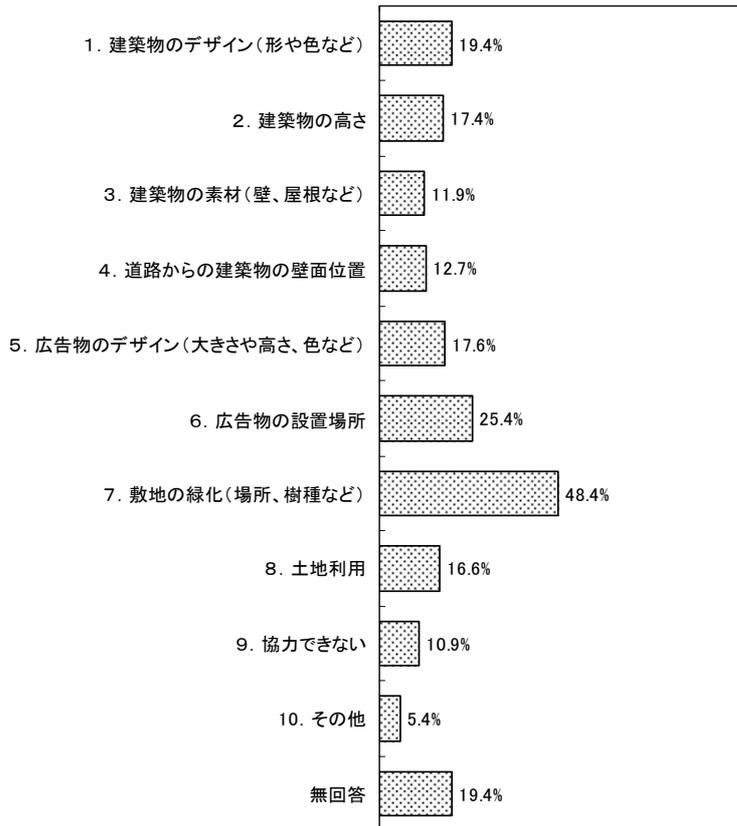
⑮ 景観に関するルールが適用される場合に協力できること

- 景観に関するルールが適用される場合に協力できることは、「敷地の緑化」が48.1%と最も高く、次いで「広告物の設置」が26.9%、「広告物のデザイン」が18.7%となっています。一方、「協力できない」と回答した人は、12.0%となっています。
- 地域別にみると、いずれの地域も「敷地の緑化」が最も高く、その割合は山内地域が3割であるが、他の地域は5割前後を占めています。また、十文字地域は広告物に関するルール、山内地域は建築物に関するルールが他地域と比較してその割合が低くなっています。

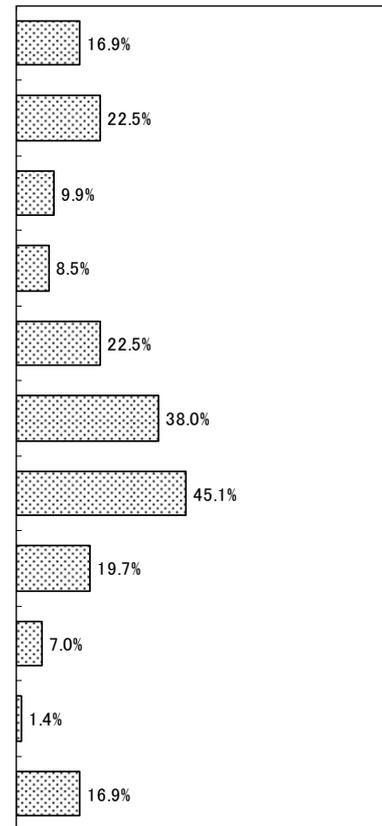
問15 あなたは、ご自分の家、事業所のある地域に景観に関するルールが適用される場合、どのようなことなら協力できますか。(すべて選択)



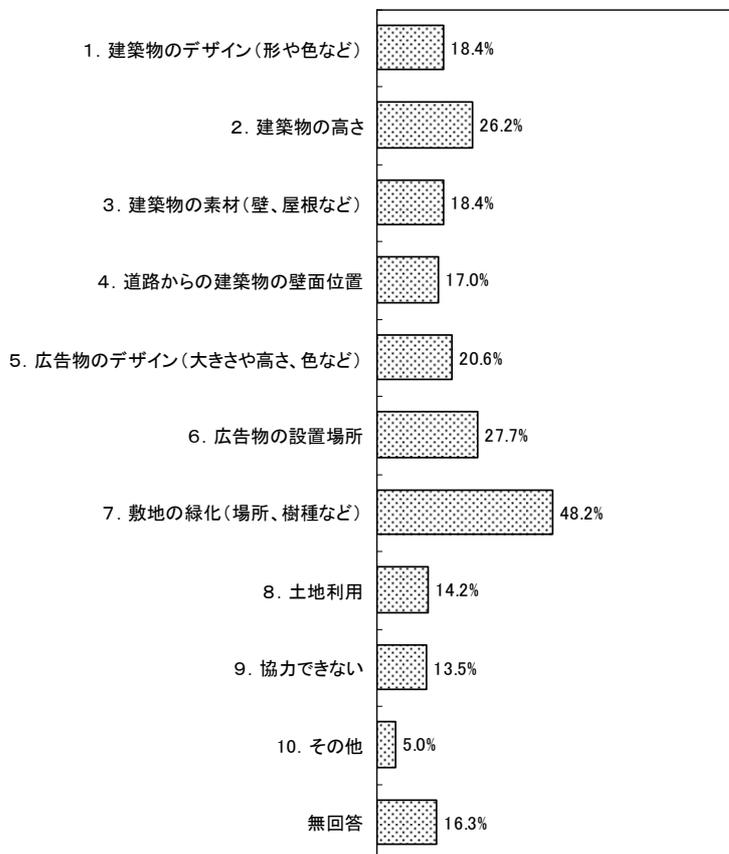
【横手地域】



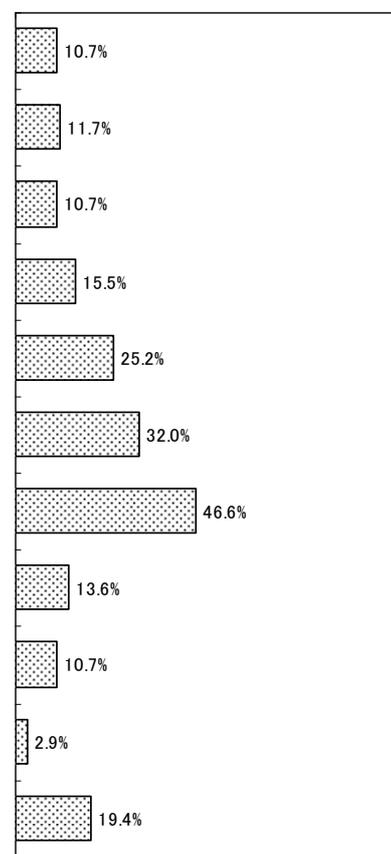
【増田地域】



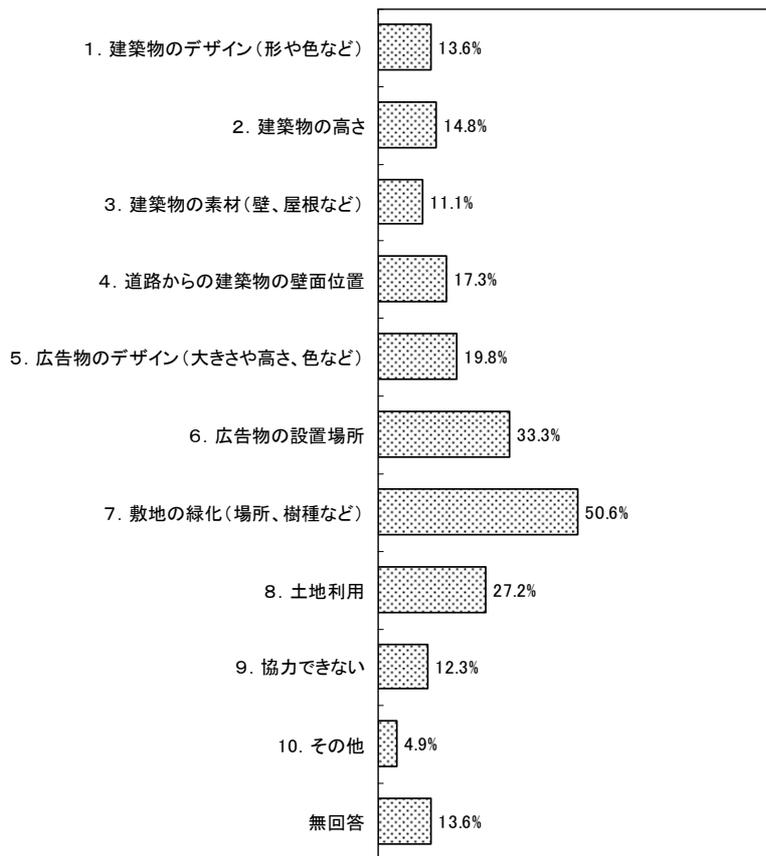
【平鹿地域】



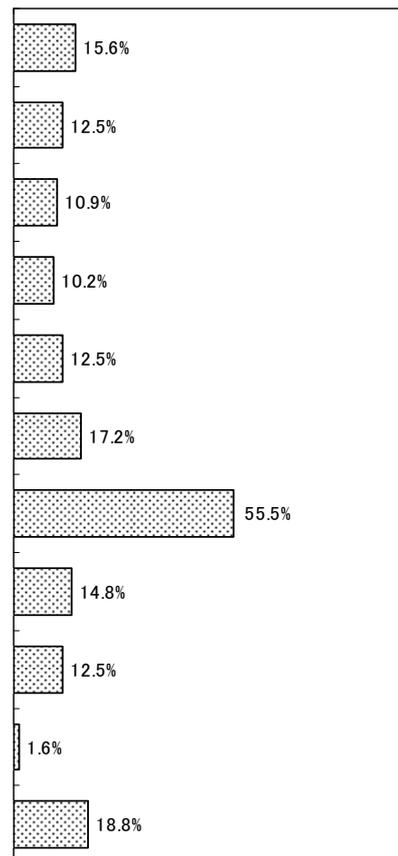
【雄物川地域】



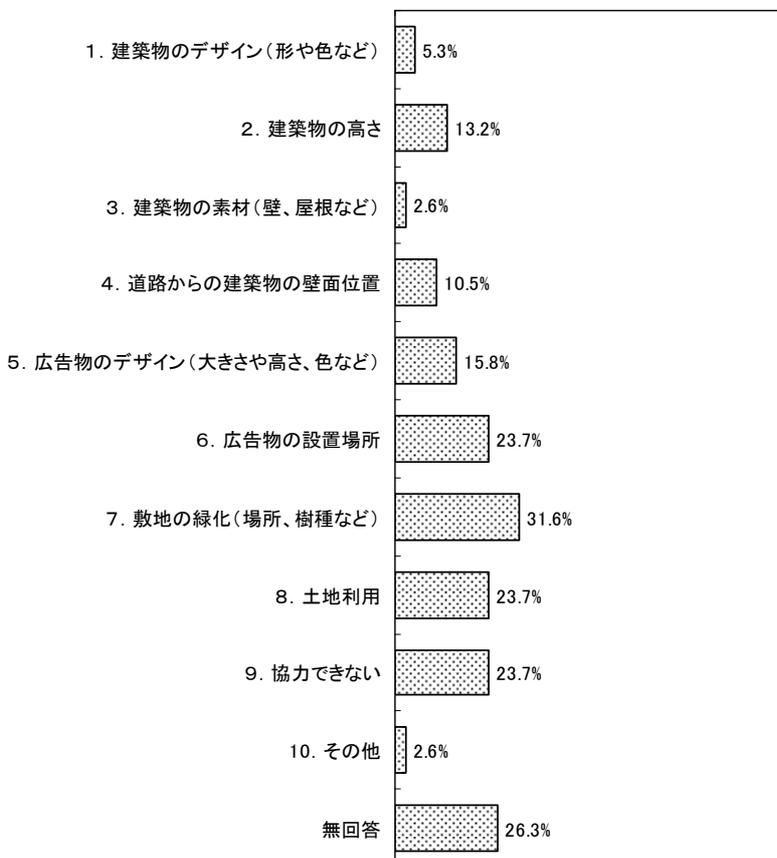
【大森地域】



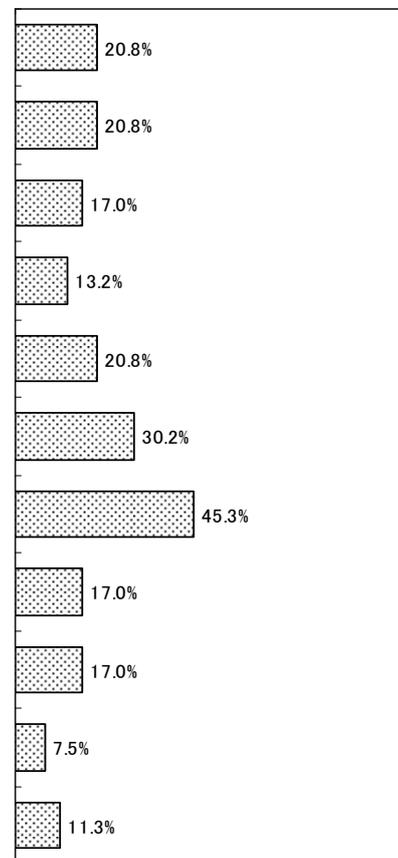
【十文字地域】



【山内地域】



【大雄地域】



⑩ 今後重要となる施策

- 今後重要となる施策については、「自然の保全」が55.5%と最も高く、次いで「景観に配慮した公共施設の整備」が47.0%、「景観上重要な建築物や樹木の保全」が41.1%となっています。
- 地域別にみても、いずれの地域も「自然を保全」が最も高く、全体で上位を占めている施策が同様に高い割合となっていますが、雄物川地域、大雄地域は「道路などの緑化」が2番目に高い割合を占めています。また、横手地域では、「電線・電柱を少なくする」の割合が他地域と比較して高くなっています。

問16 良好な景観を守り、育てていくためには、問14、問15でお聞きした景観づくりのルール以外に、今後どのような施策が重要だと思いますか。(すべて選択)

